

(調 査)

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（2）

— アンケート調査の結果と考察 —

藤 森 雄 介

キーワード

仏教社会福祉 天台宗

要約

本研究は日本の仏教宗派のひとつである天台宗の社会福祉実践に関する調査結果の報告及び考察である。

明治時代以降、我が国の社会福祉事業の形成・発展過程において、宗教とりわけ仏教が果たしてきた役割は大きいと一定の評価はなされている。しかし、その全体像に関しては、個別の寺院や社会福祉実践家などを除いてこれまで十分には調査研究がなされてこなかった。

天台宗についていえば、社会福祉に関する取り組みや「一隅を照らす運動」を行うなど、教団として社会的な活動に取り組んでいる側面があることは既に良く知られている一方で、全国に3345ヶ寺ある天台宗寺院の住職等の社会福祉実践に関する実態調査はこれまで行われることはなかった。

本稿では、特に調査の後半部分で行った社会福祉実践に関する住職個々人の現状や意識についての集計結果を報告するとともに、そこから浮かびあがってきた諸課題について一考察を試みている。

1. はじめに

本稿は、2004（平成17）年度に、天台宗宗務庁の全面的なご協力のもとで実施した「天台宗における社会福祉事業・活動に関するアンケート調査」結果のうち、前半部分を占める「寺院」の活動実態に関する単純集計結果を報告した前号¹⁾に引き続いて、本調査の後半部分である、「住職」の活動実態及び意識に関する集計結果を報告するとともに、そこから読み取れる天台宗の社会福祉事業実践に関する現状や諸課題について一考察を試みている。

2. 調査結果（ご住職の社会福祉実践について）

<問 4 >

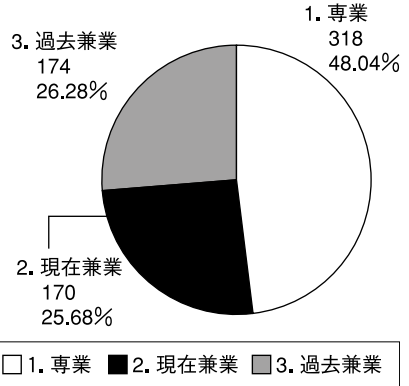
問 4 ご住職は、寺院法務専業ですか、他の仕事と兼業ですか。
 該当するものをどちらか一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. 専業	2. 現在兼業	3. 過去兼業	合計
件数	318	170	174	662
%	48.04%	25.68%	26.28%	100%

問 4 の有効回答数は 662 件である。そのうち、「専業」が 318 件で 48.04%、「現在、兼業」が 170 件で 25.68%、「過去において兼業」が 174 件で 26.28% であった。

問 4



◆以下、問 4 で、回答欄「2. 現在、兼業」と「3. 過去において兼業」に○をつけた方のみお答え下さい。

<問 4 - 1 - ① >

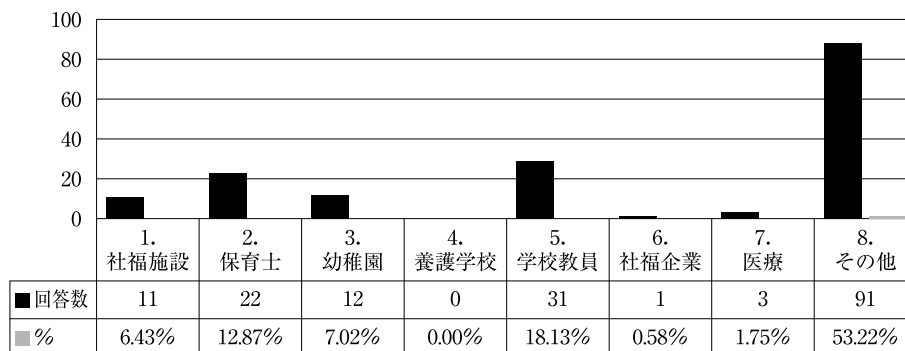
問 4 - 1 - ① 問 4 で回答欄「2. 現在、兼業」に○をつけた方のみお答えください。
 その仕事は、次のどれですか。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけ、() のなかに勤続年数を記入して下さい。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 社会福祉施設職員 | 5. (2・3以外の) 学校教員 |
| 2. 保育所または保育園保育士 (含園長) | 6. 社会福祉関連企業社員 |
| 3. 幼稚園教諭 (含園長) | 7. 医師・看護師などの医療従事者 |
| 4. 養護学校教諭 | 8. 上記のもの以外 |

2 ◆回答数

設問	1. 社福施設	2. 保育士	3. 幼稚園	4. 養護学校	5. 学校教員	6. 社福企業	7. 医療	8. その他	合計
件数	11	22	12	0	31	1	3	91	171
%	6.43%	12.87%	7.02%	0.00%	18.13%	0.58%	1.75%	53.22%	100%

問4-1-①



問4-1-①の有効回答数は171件である。「現在、兼業」の職種として、「学校教員」が31件で18.13%と最も多く、次いで「保育所または保育園保育士（含園長）」が22件で12.87%、「幼稚園教諭（含園長）」が12件で7.02%、「社会福祉施設職員」が11件で6.43%、「医師・看護師などの医療従事者」が3件で1.75%、「社会福祉関連企業社員」が1件で0.58%の順となった。また、「その他」と回答したものは91件で53.22%である。

また、各々の勤続年数の平均は、「社会福祉施設職員」が26.2年、「保育所または保育園保育士（含園長）」が24.3年、「幼稚園教諭（含園長）」が33.2年、「学校教員」が23.1年、「医師・看護師などの医療従事者」が14.5年、「その他」が21.8年であった。なお、「社会福祉関連企業社員」の勤続年数は不明である。

<問4-1-②>

問4-1-② 問4で回答欄「3. 過去において兼業」に○をつけた方のみお答えください。
 その仕事は、次のどれですか。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけ、()のなかに勤続年数を記入して下さい。

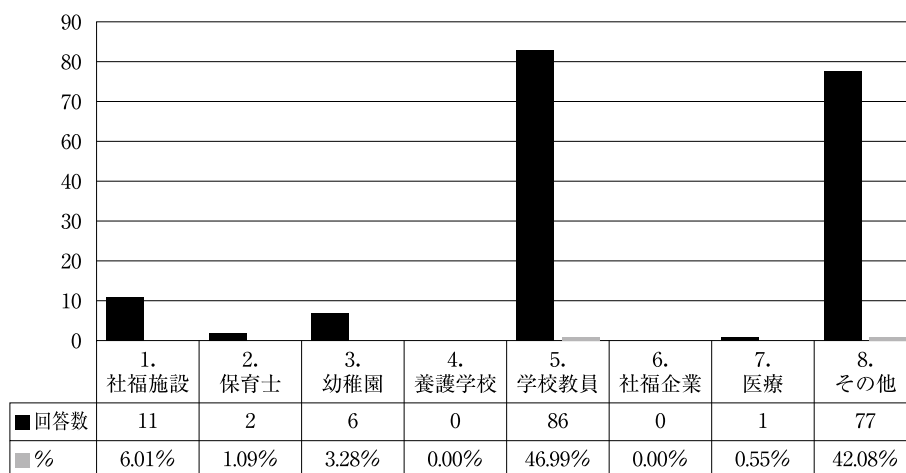
※回答群は問4-1-①と同様

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（2）

◆回答数

設問	1. 社福施設	2. 保育士	3. 幼稚園	4. 養護学校	5. 学校教員	6. 社福企業	7. 医療	8. その他	合計
件数	11	2	6	0	86	0	1	77	183
%	6.01%	1.09%	3.28%	0.00%	46.99%	0.00%	0.55%	42.08%	100%

問4-1-②



問4-1-②の有効回答数は183件である。「過去において兼業」の職種として、「学校教員」が86件で46.99%と最も多く、次いで「社会福祉施設職員」が11件で6.01%、「幼稚園教諭（含園長）」が6件で3.28%、「保育所または保育園保育士（含園長）」が2件で1.09%、「医師・看護師などの医療従事者」が1件で0.55%であった。また、「その他」と回答したものが77件で42.08%であった。

なお、「社会福祉施設職員」の平均勤続年数が29.1年、「保育所または保育園保育士（含園長）」が24.0年、「幼稚園教諭（含園長）」が30.8年、「学校教員」が31.7年、「医師・看護師などの医療従事者」が24.0年、「その他」が28.3年であった。

<問4-2>

問4-2 これらの兼業を行っている主たる理由はなんですか。
 まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 生活上の必要性があるため
 2. 生活上の必要性の有無とは関係ない

↓

回答欄B群

1. (仏教者にふさわしい) 社会实践のひとつとしてこの職業が適切であると考えて兼業している
 2. (仏教者にふさわしい) 社会实践のひとつとしてこの職業が適切であると考えたわけではなく、たまたま機会があつて兼業している
 3. その他 ()

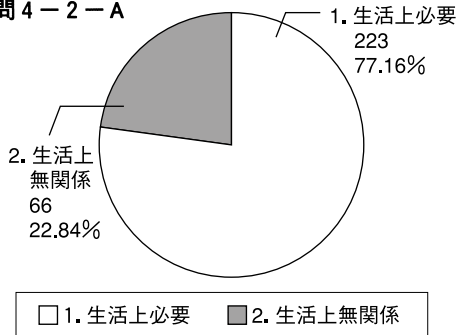
◆回答数 問4-2 A群

設問	1. 生活上必要	2. 生活上無関係	合計
件数	223	66	289
%	77.16%	22.84%	100%

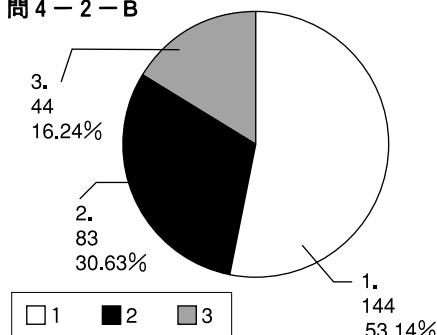
問4-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	144	83	44	40	271
%	53.14%	30.63%	16.24%		100%

問4-2-A



問4-2-B



問4-2 A群の有効回答数は289件である。そのうち、「生活上の必要性があるため」に兼業をしていると回答したものが223件で77.16%、「生活上の必要性の有無とは関係ない」と回答したものが66件で22.84%であった。

問4-2 B群の有効回答数は271件である。そのうち、「(仏教者にふさわしい) 社会实践のひとつとしてこの職業が適切であると考えて兼業している」と回答したものが144件で53.14%、「(仏教者にふさわしい) 社会实践のひとつとしてこの職業が適切であると考えたわけではなく、たまたま機会があつて兼業している」と回答したものが83件で30.63%、「その他」と回答したものが44件で16.24%であった。

<問4-3>

問4-3 これらの兼業を行う際、仏教者としての立場が影響することはありますか。

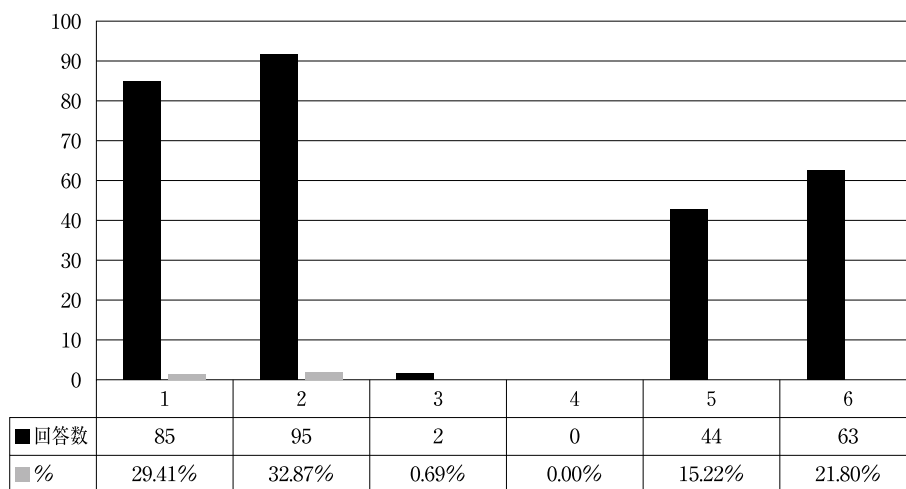
該当するものを一つ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

1. 良い意味で強く影響することがある
2. どちらかといえば良い意味で影響することがある
3. どちらかといえば悪い意味で影響することがある
4. 悪い意味で強く影響することがある
5. どちらの場合もある
6. 仏教者の立場が兼業に影響することはない

◆回答数

設問	1	2	3	4	5	6	合計
件数	85	95	2	0	44	63	289
%	29.41%	32.87%	0.69%	0.00%	15.22%	21.80%	100%

問4-3



問4-3の有効回答数は289件である。兼業を行う際、仏教者としての立場が「どちらかといえば良い意味で影響することがある」と回答したものが95件で32.87%と最も多く、次いで「良い意味で強く影響することがある」と回答したものが85件で29.41%、「仏教者の立場が兼業に影響することはない」と回答したものが63件で21.80%、「どちらの場合もある」と回答したものが44件で15.22%、「どちらかといえば悪い意味で影響することがある」と回答したものが2件で0.69%であった。

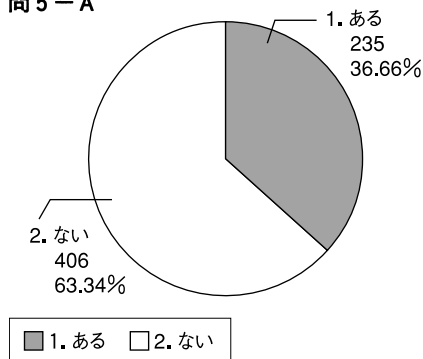
<問5-A>

問5-A ご住職が行っている、(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職はありますか。該当するもの一つだけを選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. ある	2. ない	合計
件数	235	406	641
%	36.66%	63.34%	100%

問5-A



問5-Aの有効回答数は641件である。そのうち、「ご住職が行っている、(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」が「ある」と回答したものが235件で36.66%、「ない」と回答したものが406件で63.34%であった。

◆以下、問5-Aで、回答欄「1. ある」に○をつけた方のみお答え下さい。

<問5-A-1>

問5-A-1 その活動内容について該当するものをすべてを選び、回答欄の番号に○をつけて、()のなかに活動年数を記入して下さい。なお、「7」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

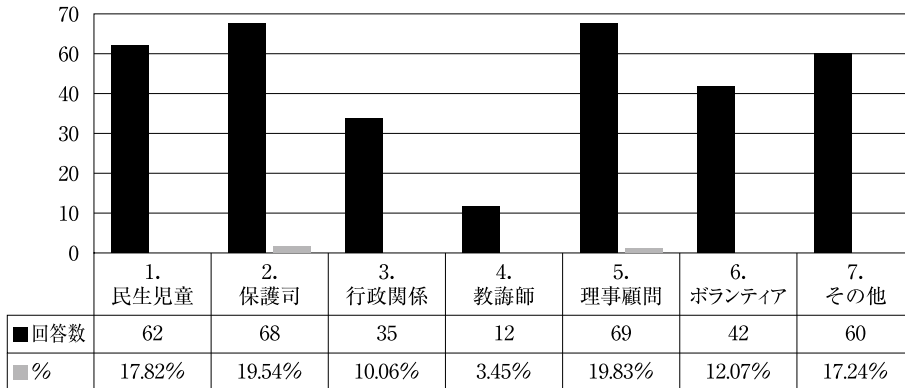
1. 民生委員・児童委員 (活動年数 年)
2. 保護司 (活動年数 年)
3. 社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係 (活動年数 年)
4. 教誨師 (活動年数 年)
5. 福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等 (活動年数 年)
6. 任意のボランティア団体会員 (活動年数 年)
7. その他 () (活動年数 年)

7

◆回答数

設問	1. 民生児童	2. 保護司	3. 行政関係	4. 教誨師	5. 理事顧問	6. ボランティア	7. その他	7. 記述	合計
件数	62	68	35	12	69	42	60	59	348
%	17.82%	19.54%	10.06%	3.45%	19.83%	12.07%	17.24%		100%

問5-A-1



問5-A-1の有効回答数は348件である。「ご住職が行っている、(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」の活動内容として、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」が69件で19.83%と最も多く、次いで「保護司」が68件で19.54%、「民生委員・児童委員」が62件で17.82%、「任意のボランティア団体会員」が42件で12.07%、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」が35件で10.06%、「教誨師」が12件で3.45%の順となった。

なお、「その他」は60件で17.24%であり、59件の具体的記述がみられた。

また、「民生委員・児童委員」の平均活動年数は13.8年であり、「保護司」は15.7年、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」が14.0年、「教誨師」が9.8年、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」が13.2年、「任意のボランティア団体会員」が13.6年、「その他」が11.7年であった。

<問5-A-2>

問5-A-2 これらの活動を行っている主たる理由は何ですか。

まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため
2. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない

回答欄B群

1. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している
2. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している
3. その他（ ）

◆回答数

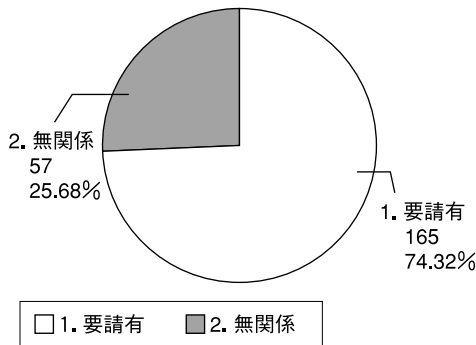
問5-A-2 A群

設問	1. 要請有	2. 無関係	合計
件数	165	57	222
%	74.32%	25.68%	100%

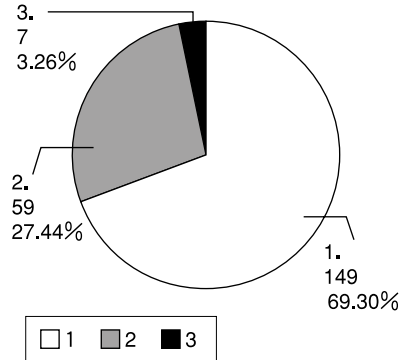
問5-A-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	149	59	7	7	215
%	69.30%	27.44%	3.26%		100%

問5-A-2 A群



問5-A-2 B群



問5-A-2 A群の有効回答数は222件である。ご住職が「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない) 社会福祉関係職」を行っている理由として、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため」と回答したものが165件で74.32%、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない」と回答したものが57件で25.68%となった。

問5-A-2 B群の有効回答数は215件である。そのうち、「仏教者の社会実践のひとつとして適切であると考えたため活動している」と回答したものが149件で69.30%であり、「仏教者の社会実践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している」と回答したものが59件で27.44%、「その他」が7件で3.26%であった。なお、「その他」と回答したうち、7件の記述がみられた。

<問5-B>

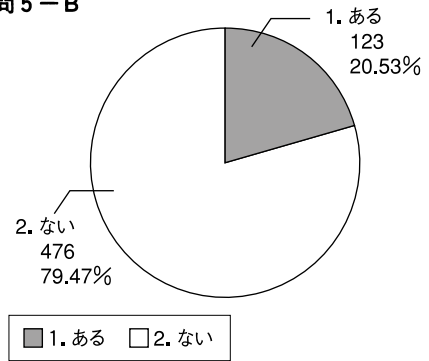
問5-B 寺族が行っている、(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない) 社会福祉関係職はありますか。
 該当するもの一つだけを選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。
 なお、「1. ある」を選んだ場合には、その下にある「①」から「④」の該当する番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. ある	2. ない	合計
件数	123	476	599
%	20.53%	79.47%	100%

問5-Bの有効回答数は599件である。そのうち、「寺族が行っている、(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」が「ある」と回答したものが123件で20.53%、「ない」と回答したものが476件で79.47%であった。

問5-B

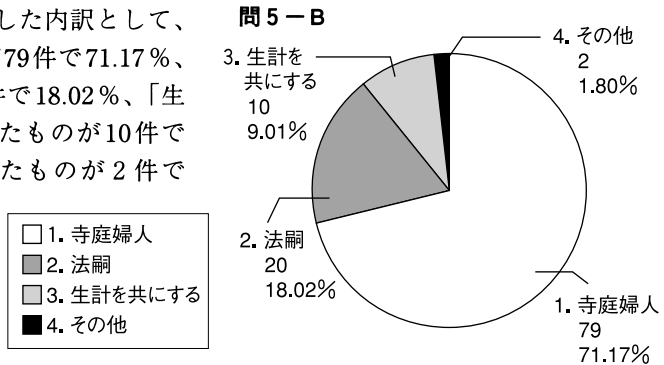


◆回答数

設問	1. 寺庭婦人	2. 法嗣	3. 生計を共にする	4. その他	合計
件数	79	20	10	2	111
%	71.17%	18.02%	9.01%	1.80%	100%

問5-Bで「ある」と回答した内訳として、「寺庭婦人」と回答したものが79件で71.17%、「法嗣」と回答したものが20件で18.02%、「生計を共にする家族」と回答したものが10件で9.01%、「その他」と回答したものが2件で1.18%であった。

問5-B



◆以下、問5-Bで、回答欄「1. ある」に○をつけた方のみお答え下さい。

<問5-C-1>

問5-C-1 寺庭婦人が行っているその活動内容について、該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけて、()のなかに活動年数を記入して下さい。なお、「7」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

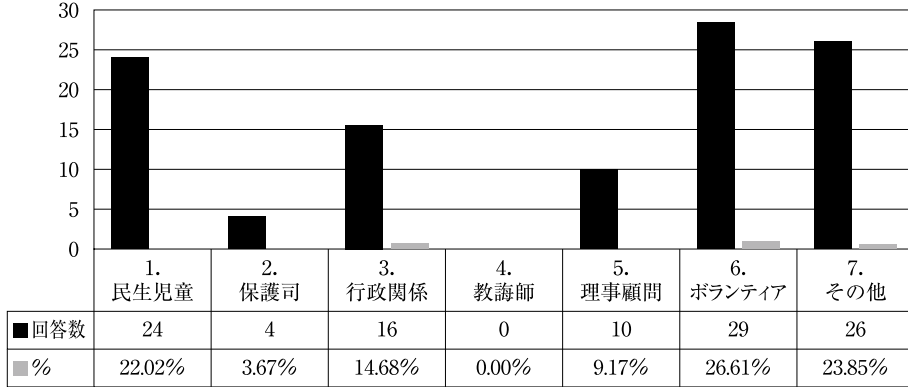
10

1. 民生委員・児童委員 (活動年数 年)
2. 保護司 (活動年数 年)
3. 社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係 (活動年数 年)
4. 教誨師 (活動年数 年)
5. 福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等 (活動年数 年)
6. 任意のボランティア団体会員 (活動年数 年)
7. その他 () (活動年数 年)

◆回答数

設問	1. 民生児童	2. 保護司	3. 行政関係	4. 教諭師	5. 理事顧問	6. ボランティア	7. その他	7. 記述	合計
件数	24	4	16	0	10	29	26	25	109
%	22.02%	3.67%	14.68%	0.00%	9.17%	26.61%	23.85%		100%

問5-C-1



問5-C-1の有効回答数は109件である。そのうち、寺庭婦人が行っている「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」として、「任意のボランティア団体会員」が29件で26.61%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」が24件で22.02%、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」が16件で14.68%、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」が10件で9.17%、「保護司」が4件で3.67%の順であった。なお、「その他」が26件で23.85%であり、25件の記述がみられた。

また、「民生委員・児童委員」の平均活動年数は9.2年であり、「保護司」は14.5年、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」は10.9年、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」は13.1年、「任意のボランティア団体会員」は12.6年、「その他」は13.5年であった。

<問5-C-2>

問5-C-2 これらの活動を行っている主たる理由はなんですか。
 まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため
 2. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない

↓

回答欄B群

1. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している
 2. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している
 3. その他（ ）

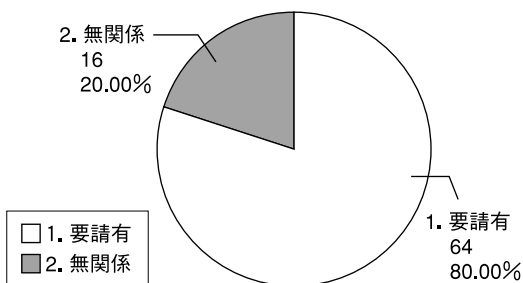
◆回答数 問5-C-2 A群

設問	1. 要請有	2. 無関係	合計
件数	64	16	80
%	80.00%	20.00%	100%

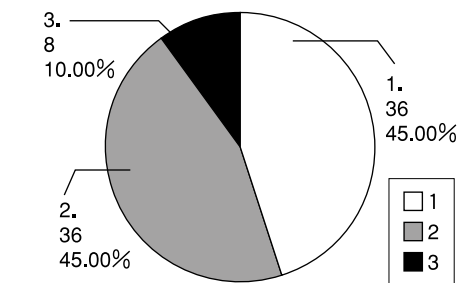
問5-C-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	36	36	8	7	80
%	45.00%	45.00%	10.00%		100%

問5-C-2 A群



問5-C-2 B群



問5-C-2 A群の有効回答数は80件である。寺庭婦人が「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない) 社会福祉関係職」を行う理由として、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため」と回答したものが64件で80.00%、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない」と回答したものが16件で20.00%であった。

12

問5-C-2 B群の有効回答数は80件である。そのうち、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している」と「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している」と回答したものがともに36件で45.00%、「その他」と回答したものが8件で10.00%となった。なお、「その他」と回答したうち、7件の記述がみられた。

<問5-D-1>

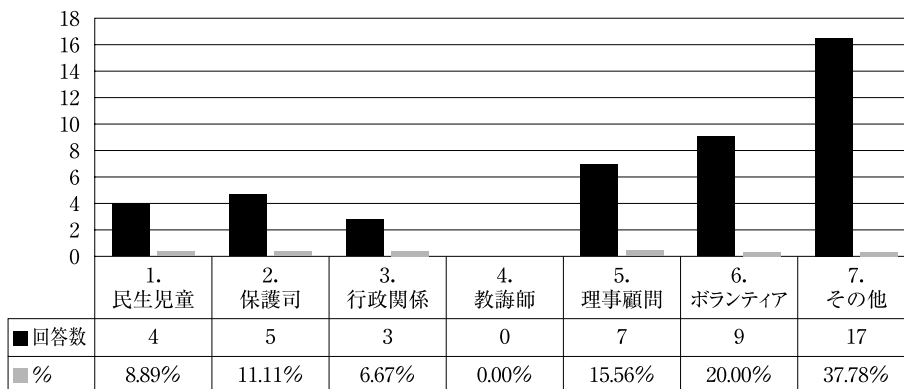
問5-D-1 法嗣が行っているその活動内容について、該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけて、()のなかに活動年数を記入して下さい。なお、「7」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

1. 民生委員・児童委員 (活動年数 年)
2. 保護司 (活動年数 年)
3. 社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係 (活動年数 年)
4. 教誨師 (活動年数 年)
5. 福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等 (活動年数 年)
6. 任意のボランティア団体会員 (活動年数 年)
7. その他 () (活動年数 年)

◆回答数

設問	1. 民生児童	2. 保護司	3. 行政関係	4. 教誨師	5. 理事顧問	6. ボランティア	7. その他	7. 記述	合計
件数	4	5	3	0	7	9	17	16	45
%	8.89%	11.11%	6.67%	0.00%	15.56%	20.00%	37.78%		100%

問5-D-1



問5-D-1の有効回答数は45件である。法嗣が行っている「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」として、「任意のボランティア団体会員」が9件で20.00%と最も多く、次いで「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」が7件で15.56%、「保護司」が5件で11.11%、「民生委員・児童委員」が4件で8.89%、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」が3件で6.67%の順であった。なお、「その他」と回答したものは17件で37.78%である。

また、「民生委員・児童委員」の平均活動年数は3.3年であり、「保護司」は5.5年、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」は14.0年、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」は8.9年、「任意のボランティア団体会員」は7.7年、「その他」は7.2年であった。

13

<問5-D-2>

問5-D-2 これらの活動を行っている主たる理由は何ですか。

まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため
2. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない

↓

回答欄B群

1. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している
2. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している
3. その他（ ）

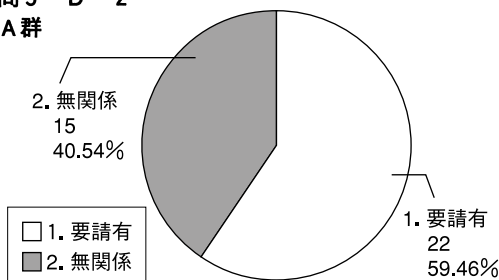
◆回答数 問5-D-2 A群

設問	1. 要請有	2. 無関係	合計
件数	22	15	37
%	59.46%	40.54%	100%

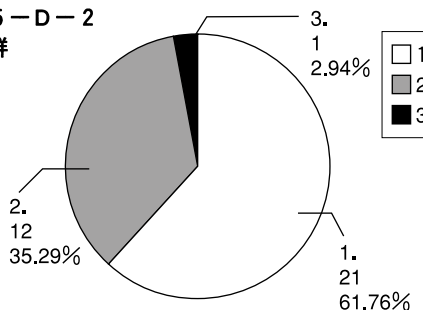
問5-D-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	21	12	1	0	34
%	61.76%	35.29%	2.94%		100%

問5-D-2 A群



問5-D-2 B群



問5-D-2 A群の有効回答数は37件である。法嗣が「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない) 社会福祉関係職」を行う理由として、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため」と回答したものが22件で59.46%、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない」と回答したものが15件で40.54%であった。

問5-D-2 B群の有効回答数は34件である。そのうち、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している」と回答したものが21件で61.76%であり、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している」と回答したものが12件で35.29%、「その他」と回答したものが1件で2.94%となった。

<問5-E-1>

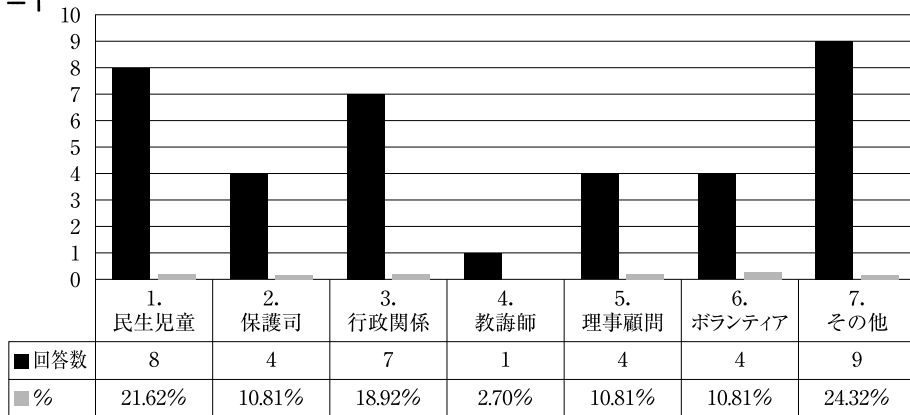
問5-E-1 生計を共にする家族が行っているその活動内容について、該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけて、()のなかに活動年数を記入して下さい。なお、「7」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

1. 民生委員・児童委員 (活動年数 年)
2. 保護司 (活動年数 年)
3. 社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係 (活動年数 年)
4. 教誨師 (活動年数 年)
5. 福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等 (活動年数 年)
6. 任意のボランティア団体会員 (活動年数 年)
7. その他 () (活動年数 年)

◆回答数

設問	1. 民生児童	2. 保護司	3. 行政関係	4. 教誨師	5. 理事顧問	6. ボランティア	7. その他	7. 記述	合計
件数	8	4	7	1	4	4	9	9	37
%	21.62%	10.81%	18.92%	2.70%	10.81%	10.81%	24.32%		100%

問5-E-1



問5-E-1の有効回答数は37件である。生計を共にする家族が行っている「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」として、「民生委員・児童委員」が8件で21.62%と最も多く、次いで「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」が7件で18.92%、「保護司」と「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」と「任意のボランティア団体会員」がともに4件で10.81%、「教誨師」が1件で2.70%の順であった。なお、「その他」と回答したものは9件で24.32%であり、そのうち9件の記述がみられた。

また、「民生委員・児童委員」の平均活動年数は8.1年であり、「保護司」は17.0年、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」は14.1年、「教誨師」は15.0年、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」は14.8年、「任意のボランティア団体会員」は8.5年、「その他」は13.0年であった。

<問5-E-2>

問5-E-2 これらの活動を行っている主たる理由は何ですか。

まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため
2. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない

↓

回答欄B群

1. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している
2. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している
3. その他（ ）

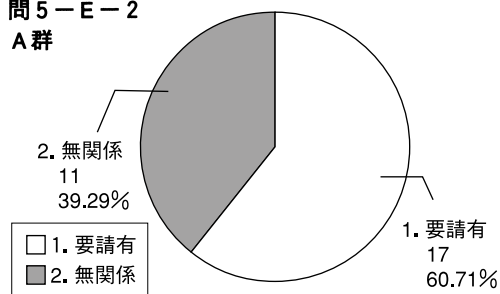
◆回答数 問5-E-2 A群

設問	1. 要請有	2. 無関係	合計
件数	17	11	28
%	60.71%	39.29%	100%

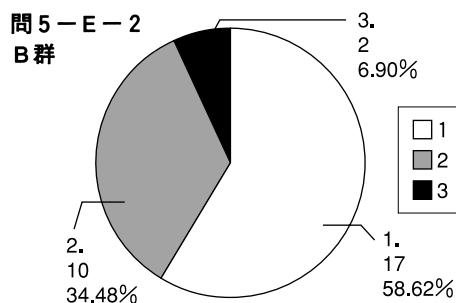
問5-E-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	17	10	2	2	29
%	58.62%	34.48%	6.90%		100%

問5-E-2 A群



問5-E-2 B群



問5-E-2 A群の有効回答数は28件である。生計を共にする家族が「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」を行う理由として、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため」と回答したものが17件で60.71%、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない」と回答したものが11件で39.29%であった。

16

問5-E-2 B群の有効回答数は29件である。そのうち、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している」と回答したものが17件で58.62%であり、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している」と回答したものが10件で34.48%、「その他」と回答したものが2件で6.90%となった。なお、「その他」と回答したうち、2件の記述がみられた。

<問5-F-1>

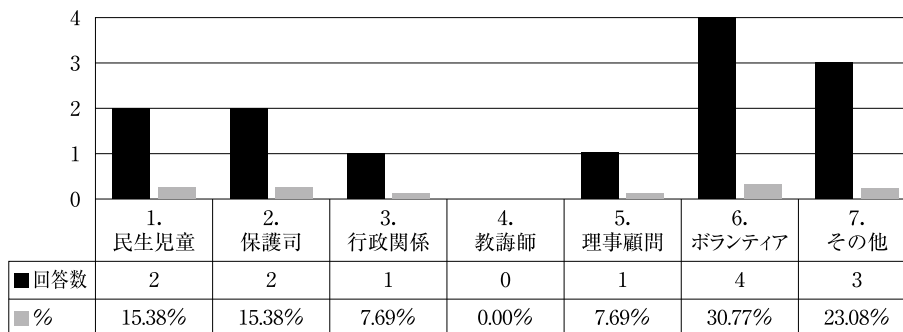
問5-F-1 その他の寺族が行っているその活動内容について、該当するものをすべて選び、回答欄の番号に○をつけて、()のなかに活動年数を記入して下さい。なお、「7」の番号を選んだ場合には、併せて()のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

1. 民生委員・児童委員 (活動年数 年)
2. 保護司 (活動年数 年)
3. 社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係 (活動年数 年)
4. 教誨師 (活動年数 年)
5. 福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等 (活動年数 年)
6. 任意のボランティア団体会員 (活動年数 年)
7. その他 () (活動年数 年)

◆回答数

設問	1. 民生児童	2. 保護司	3. 行政関係	4. 教誨師	5. 理事顧問	6. ボランティア	7. その他	7. 記述	合計
件数	2	2	1	0	1	4	3	3	13
%	15.38%	15.38%	7.69%	0.00%	7.69%	30.77%	23.08%		100%

問5-F-1



問5-F-1の有効回答数は13件である。その他の寺族が行っている「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない)社会福祉関係職」として、「任意のボランティア団体会員」が4件で30.77%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」と「保護司」がともに2件で15.38%、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」と「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」がともに1件で7.69%の順であった。なお、「その他」と回答したものは3件で23.08%であり、そのうち3件の記述がみられた。

また、「民生委員・児童委員」の平均活動年数は8.5年であり、「保護司」は40年、「福祉施設・団体等の理事・顧問・監事等」は40年、「任意のボランティア団体会員」は14.3年、「その他」は36年であった。なお、「社会福祉計画推進委員等、地域における行政関係」の活動年数は不明であった。

17

<問5-F-2>

問5-F-2 これらの活動を行っている主たる理由は何ですか。

まず回答欄A群から該当するものをどちらか一つ選んで番号に○をつけ、つづけて、回答欄B群から該当するものを一つ選んで番号に○をつけてください。なお、回答欄B群で「3」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

回答欄A群

1. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため
2. 行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない

↓

回答欄B群

1. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している
2. 仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している
3. その他（ ）

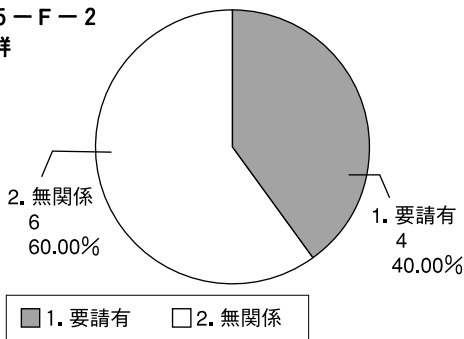
◆回答数 問5-F-2 A群

設問	1. 要請有	2. 無関係	合計
件数	4	6	10
%	40.00%	60.00%	100%

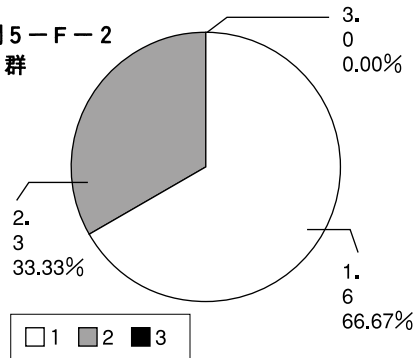
問5-F-2 B群

設問	1	2	3	3. 記述	合計
件数	6	3	0	0	9
%	66.67%	33.33%	0.00%		100%

問5-F-2 A群



問5-F-2 B群



18 問5-F-2 A群の有効回答数は10件である。その他の寺族が「(原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない) 社会福祉関係職」を行う理由として、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請があったため」と回答したものが4件で40.00%、「行政・地域社会・宗門内・檀家等からの要請の有無に関わらない」と回答したものが6件で60.00%であった。

問5-F-2 B群の有効回答数は9件である。そのうち、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたため活動している」と回答したものが6件で66.67%であり、「仏教者の社会实践のひとつとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があって活動している」と回答したものが3件で33.33%、「その他」と回答したものが0件であった。

<問6>

問6 近年、社会実践の新しい組織形態として注目されている「NGO」・「NPO」についてお尋ねします。

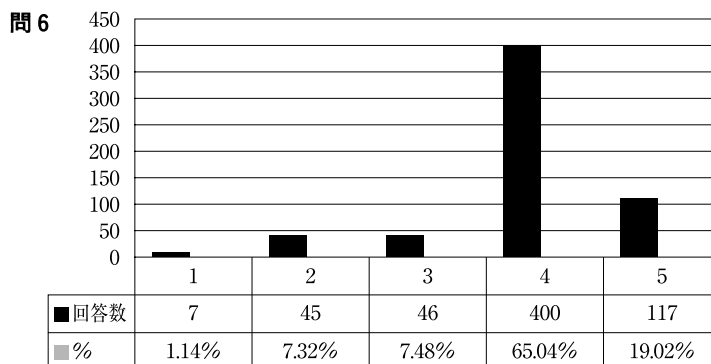
該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

なお、「1」または「2」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、団体名を記入して下さい。

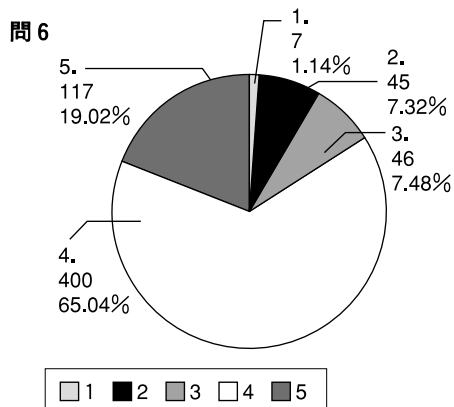
1. 実際に団体を主宰し、活動している
2. 既存団体に参加している
3. 関心はあり、今後は参加も考えている
4. 関心はあるが今のところ参加は考えていない
5. 関心はない

◆回答数

設問	1	1. 記述	2	2. 記述	3	4	5	合計
件数	7	6	45	41	46	400	117	615
%	1.14%		7.32%		7.48%	65.04%	19.02%	100%



問6の有効回答数は615件である。「NGO」・「NPO」に対して「関心はあるが今のところ参加は考えていない」と回答したものが400件で65.04%と最も多く、次いで「関心はあり、今後は参加も考えている」と回答したものが46件で7.48%、「既存団体に参加している」と回答したものが45件（具体的記述41件）で7.32%、「実際に団体を主宰し、活動している」と回答したものが7件（具体的記述6件）で1.14%であった。また、「その他」と回答したものは117件で19.02%であった。



<問7>

問7 ターミナルケア（終末期医療、ビハーラ）についてお尋ねします。

該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

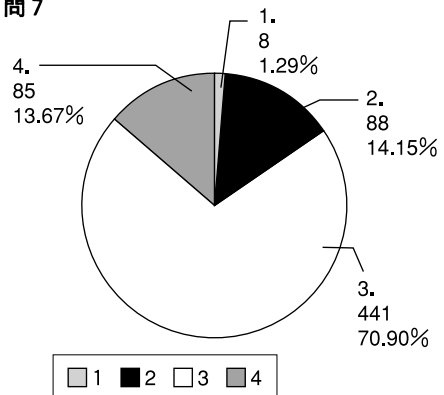
1. 実際に携わっている
2. 関心はあり、今後は関わることも考えている
3. 関心はあるが今のところ関わることは考えていない
4. 関心はない

※「ターミナルケア（終末期医療）」とは、現代の医療では治癒の見込めない終末期にある患者を対象に、単に延命を目的とする治療ではなく、精神的な支援も含めた痛みの緩和などを中心に行われるケアのこと。

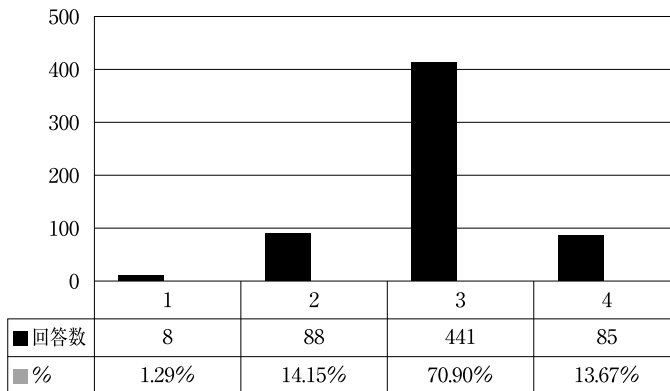
◆回答数

設問	1	2	3	4	合計
件数	8	88	441	85	622
%	1.29%	14.15%	70.90%	13.67%	100%

問7



問7



20 問7の有効回答数は622件である。そのうち、「ターミナルケア（終末期医療、ビハーラ）」に対して「関心はあるが今のところ関わることは考えていない」と回答したものが441件で70.90%と最も多く、次いで「関心はあり、今後は関わることも考えている」と回答したものが88件で14.15%、「関心はない」と回答したものが85件で13.67%、「実際に携わっている」が8件で1.29%の順であった。

<問 8 >

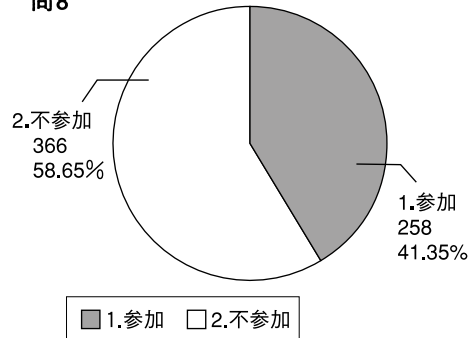
問 8 社会福祉に関する研修会・講習会についてお尋ねします。
過去3カ年の内に社会福祉に関する研修会・講習会に参加しましたか。
該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

◆回答数

設問	1. 参加	2. 不参加	合計
件数	258	366	624
%	41.35%	58.65%	100%

問 8 の有効回答数は624件である。そのうち、「過去3カ年の内に社会福祉に関する研修会・講習会」に「参加した」と回答したものが258件で41.35%、「参加していない」と回答したものが366件で58.65%であった。

問8



◆以下、問 8 で、回答欄「1. 参加した」に○をつけた方のみお答え下さい。

<問 8 - 1 >

問 8 - 1 参加した研修会や講習会はどこが主催したものですか。
該当するものすべてを選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。なお、「4」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）のなかに、具体的な内容を記入して下さい。

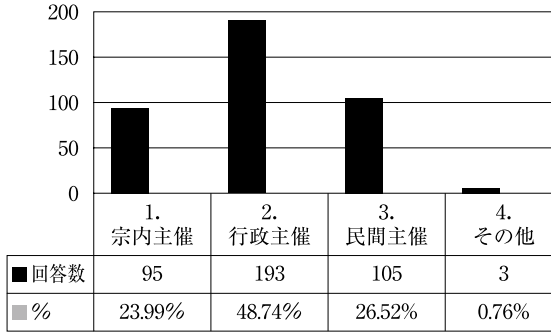
1. 宗内主催の社会福祉関係の研修会・講習会
2. 行政主催の社会福祉関係の研修会・講習会
3. 民間（連盟・協会等）主催の社会福祉関係の研修会・講習会
4. その他（ ）

◆回答数

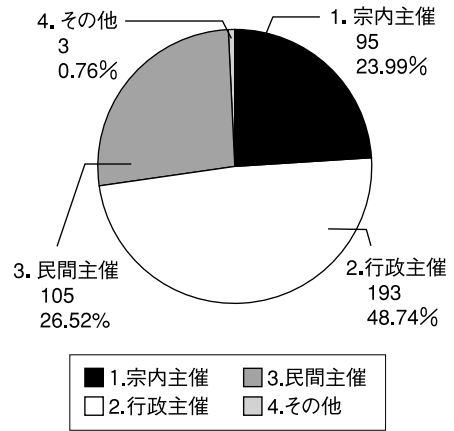
設問	1. 宗内主催	2. 行政主催	3. 民間主催	4. その他	4. 記述	合計
件数	95	193	105	3	3	396
%	23.99%	48.74%	26.52%	0.76%		100%

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（2）

問8-1



問8-1



問8-1の有効回答数は396件である。そのうち、「行政主催の社会福祉関係の研修会・講習会」に参加したとの回答が193件で48.74%と最も多く、次いで「民間（連盟・協会等）主催の社会福祉関係の研修会・講習会」への参加が105件で26.52%、「宗内主催の社会福祉関係の研修会・講習会」への参加が95件で23.99%の順となった。なお、「その他」と回答したものは3件で0.76%である。

<問8-2>

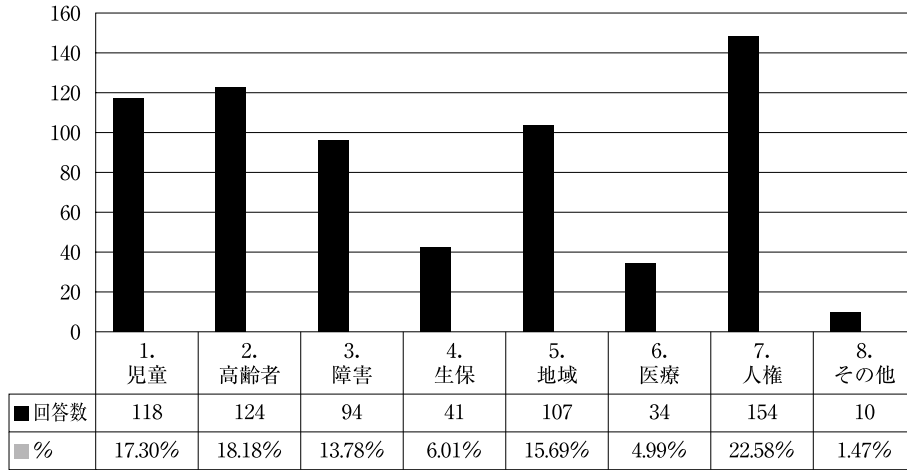
問8-2 参加した研修会・講習会はどのような社会福祉分野ですか。
 回答欄の中より該当するものすべてを選び、番号に○をつけて下さい。なお、「8」の番号を選んだ場合には、併せて（ ）の中に、具体的な内容を記入して下さい。

1. 児童福祉に関する研修会・講習会	5. 地域福祉に関する研修会・講習会
2. 高齢者福祉に関する研修会・講習会	6. 医療福祉に関する研修会・講習会
3. 障害児・者の福祉に関する研修会・講習会	7. 人権・同和に関する研修会・講習会
4. 生活保護に関する研修会・講習会	8. その他（ ）

◆回答数

設問	1. 児童	2. 高齢者	3. 障害	4. 生保	5. 地域	6. 医療	7. 人権	8. その他	8. 記述	合計
件数	118	124	94	41	107	34	154	10	9	682
%	17.30%	18.18%	13.78%	6.01%	15.69%	4.99%	22.58%	1.47%		100%

問 8 - 2



問 8 - 2 の有効回答数は 682 件である。「参加した研修会・講習会」の分野として、「人権・同和に関する研修会・講習会」が 154 件で 22.58% と最も多く、次いで「高齢者福祉に関する研修会・講習会」が 124 件で 18.18%、「児童福祉に関する研修会・講習会」が 118 件で 17.30%、「地域福祉に関する研修会・講習会」が 107 件で 15.69%、「障害児・者の福祉に関する研修会・講習会」が 94 件で 13.78%、「生活保護に関する研修会・講習会」が 41 件で 6.01%、「医療福祉に関する研修会・講習会」が 34 件で 4.99% の順であった。なお、「その他」と回答したものは 10 件で 1.47% である。

< 問 9 >

問 9 ご住職の社会福祉についての関心について、お尋ねします。
 該当するものを一つだけ選び、回答欄の番号に○をつけて下さい。

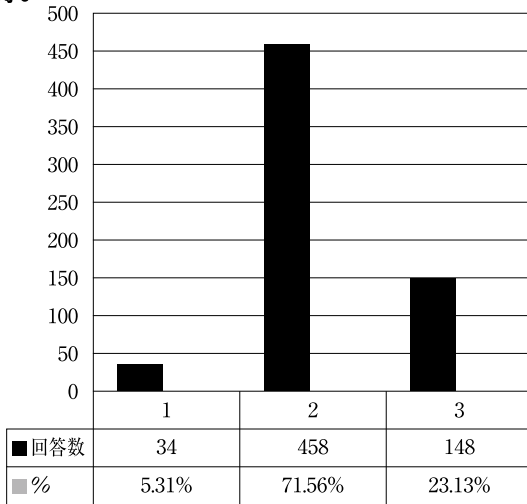
1. 個人として、社会福祉そのものに関心が無い
2. 個人として社会福祉には関心があるが、社会福祉実践を行うまでには至っていない
3. 個人として社会福祉には関心があり、社会福祉実践も行っている

◆ 回答数

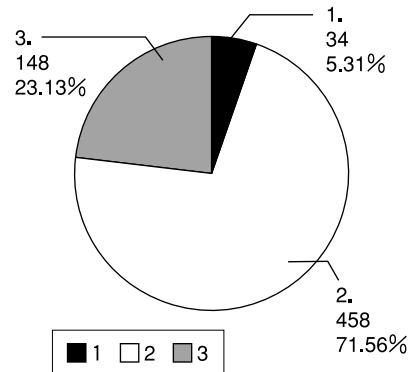
設問	1	2	3	合計
件数	34	458	148	640
%	5.31%	71.56%	23.13%	100%

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（2）

問9



問9



問9の有効回答数は640件である。そのうち、ご住職が「個人として社会福祉には関心があるが、社会福祉実践を行うまでには至っていない」と回答したものが458件で71.56%と最も多く、次いで「個人として社会福祉には関心があり、社会福祉実践も行っている」と回答したものが148件で23.13%、「個人として、社会福祉そのものに関心が無い」が34件で5.31%の順となった。

また、94.69%（606件）が「個人として社会福祉に関心がある」という結果となった。

<問10>

問10 社会福祉と仏教者との関わりはどうあるべきだと考えますか。

回答欄の中から該当する番号から一つを選んで○をつけるとともに、その理由について、住職個人のお考えで結構ですので、忌憚のないご意見をご自由にお書き下さい。

1. より積極的に関わっていくべきである

2. 現状のままでよい

3. 特に関わる必要はない

4. その他 ()

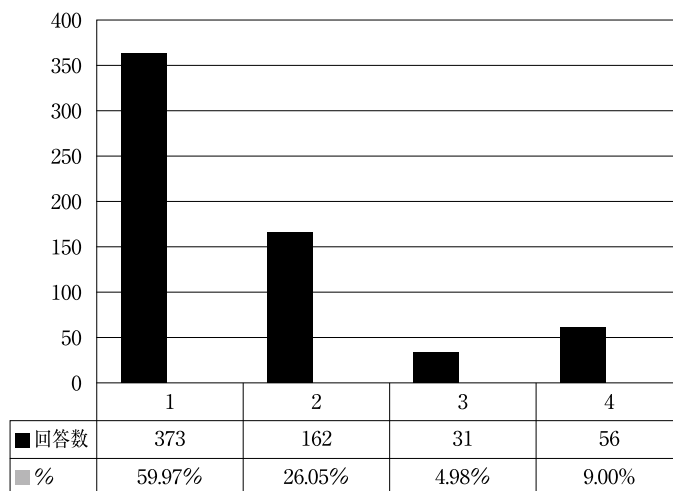
理由：

24

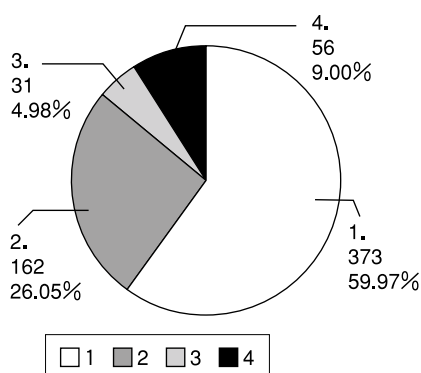
◆回答数

設問	1	2	3	4	問10.その他記述	合計
件数	373	162	31	56	38	622
%	59.97%	26.05%	4.98%	9.00%		100%

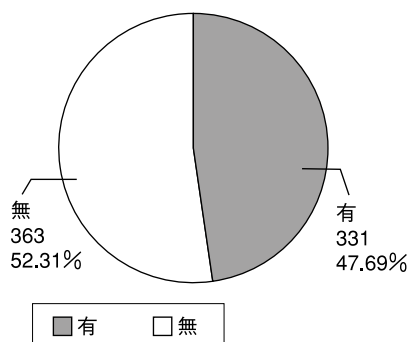
問10



問10



理由の有無



問10の有効回答数は622件である。そのうち、「社会福祉と仏教者との関わり」について「より積極的に関わっていくべきである」との回答が373件で59.97%と最も多く、次いで「現状のままでよい」と回答したものが162件で26.05%、「特に関わる必要はない」との回答が31件で4.98%の順となった。なお、「その他」と回答したものは56件で9.00%であり、そのうち38件の記述がみられた。

◆回答数 理由

設問	1	2	合計
件数	331	363	640
%	47.69%	52.31%	100%

問10の理由として、何らかの記述がみられたのは331件である。

3. 調査結果に関する留意点及び今後の課題

問4および問5は、住職の法務専業・兼業の別を問いつつ、その日々の諸活動の中で社会福祉に関連するものがどの程度行われているのかを明らかにするための項目である。例えば、兼業の内で社会福祉に関連する仕事についている住職（問4-1-①・問4-1-②）、（原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない）社会福祉関係職を担っている住職（問5-A）といった数値結果をどのように読み解いていくのかは、今後の他宗との比較検討によって明らかにしていきたいと考えるが、中でも興味深いのは、兼業を行っている住職のうち、その仕事は「（仏教者にふさわしい）社会実践の一つとしてこの職業が適切であると考えて兼業している」ものが有効回答数の5割（53.14%）に達し（問4-2 回答欄B群）、また（原則として無給もしくは定期的な報酬を伴わない）社会福祉関係職を担っている住職のうち、「仏教者の社会実践の一つとして適切であると考えたため活動している」ものが有効回答数の6割強であり（問5-A-2 回答欄B群）、さらには兼業を行う際に仏教者としての立場が「良い意味で強く影響することがある」と「どちらかといえばよい意味で影響することがある」との回答を合わせると6割を超えて（62.25%）（問4-3）いることなどは、今後、仏教者の社会的実践の一つとして社会福祉を考えていく際に頼もしい数値であるといえよう。さらに、寺庭婦人の社会福祉活動を行う理由において、「仏教者の社会実践の一つとして適切であると考えたため活動している」という回答率と、「仏教者の社会実践の一つとして適切であると考えたわけではないが、たまたま機会があつて活動している」という回答率が共に45.00%と同数（問5-C-2 回答欄B群）であり、住職の活動理由の7割以上が前者であったことは大きく異なる結果となった。この結果は、今後、地域社会あるいは寺院における寺庭婦人の役割と社会福祉活動の主体的動機を考える上で重要となると思われる。

問6は、「NPO」・「NGO」に関する実践状況や関心の度合いについて明らかにする項目であり、問7は「ターミナルケア（ビハラー、終末期医療）」に関する実践状況や関心度の度合いについて明らかにする項目である。いわゆる「NPO」・「NGO」は、近年、社会実践の新しい組織形態として注目されているものであり、その活動団体の中には社会福祉に関わる領域を目的としているものも数多く見られる。また、ターミナルケア（ビハラー、終末期医療）に関しては、歴史的な臨終行儀の作法等にもみられるように、本来、仏教者が専門とすべき領域ともいえるものである²⁾。

調査結果をみると、「NPO」・「NGO」に「関心がない」と回答したものは有効回答数の約2割、ターミナルケアに「関心がない」と回答したものが有効回答数の1割程度に留まっており、「何らかに関心を持っている」という点では双方とも非常に高い数値結果を得ることができた。ただし、「関心はあるが今のところ関わること（参加すること）は考えていない」との回答が問6・問7の双方とも有効回答率の6割以上となっており、これらの「消極的な関心層」にどのような働きかけを行っていくのが今後の活性化を考える上では重要なポイントとなっていくと考えられよう。

問8から問8-2は、社会福祉に関する研修会・講習会に関する参加の有無やその内容について明らかにする項目である。参加状況や宗門としての特徴的な部分については、先の問と同様に、今後の他宗との比較検討によって明らかにすることが可能であると考えられるが、やはり、「行政主催の社会福祉関係の研修会・講習会」が有効回答数の約5割であり、宗門主催のもの（約2割）よりも3割強程度上回っている点は気になる点ではある。「社会福

社」に対して宗門としてはどのような位置づけで考えているのか、またそのための啓蒙的な活動や支援はどのように行われているのか等について、その効果も含めて今後検討を加え、より具体的な提言を行っていく必要があると考えている。

問9は、住職個人の（主観的な考えとしての）社会福祉の関心について明らかにする項目である。幸い、何らかの形で「社会福祉に関心がある」ものは有効回答数の9割を超えているものの、実際の活動に至っているものは有効回答数の2割程度に留まっている。ここでも先の間からも見えてきたように、「消極的な関心層」にどのような働きかけを行っていくのが必要不可欠である。

問10は、客観的にみた仏教と社会福祉との関わりについて、それぞれ明らかにする項目である。ここでは、アンケート調査開始時点で「より積極的に関わっていくべきである」、「現状のままでよい」、「特に関わる必要はない」、「その他」と4つの選択肢を設けて調査を行い、一定の数値結果を得ることができた。しかし実際には、その理由として自由記述をしていただいた回答が331件（有効回答数の4割強）あり、その内容をみる限り「社会福祉」に対する捉え方も様々であり、まして「仏教」との関係においては、より個別の見解をお持ちの方が多数おり、単純な類型化は困難であると痛感している次第である。ただし、それらの多くは、今後の仏教社会福祉を考えていく際に、多分に示唆に富む提案や考え方を提示していただいているため、今後、その内容を精査して細かい分類を行うことで、より具体的な「社会福祉と仏教者との関わり」あるいは「社会福祉と仏教との関わり」に関する数値結果を明らかにすることができると考えている³⁾。

4. おわりに

以上、アンケート調査項目についての集計結果とそこから読み取れる現状と課題等について考察を試みてきたが、（前節においても触れたとおり）その理由を自由記述等で答えていただいた問10をはじめ、各問において「その他」として具体的な内容をお書きいただいたものなど、貴重な意見を整理してご報告しなければならない箇所が幾つか残されている。

ただ、これらの記述箇所については、単純集計等の数的処理とは別の視点での類型化や分類が必要となってくるため、紙面の関係上、稿を改めて行いたい。

追記

本調査の意義をご理解いただき、全面的にご支援下さった天台宗宗務庁社会課の皆様、お忙しい中、貴重なお時間をさいてアンケートにご協力いただいた各寺院の皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

註

- 1) 藤森雄介「天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（1）」（『国際コミュニケーション学会 国際経営・文化研究』Vol.15 No.1 55～77頁。
- 2) 臨終行儀の作法等については、神居文彰・長谷川匡俊・田宮仁・藤腹明子著 『臨終行儀～日本的ターミナル・ケアの原点～』北辰堂 1993年等を参照。
- 3) 本調査における、数値分析や自由記述の分析手法については、石川基樹「浄土宗寺院・住職の社会福祉実践と意識」（『日本仏教社会福祉学会年報』第40号 2010 75～83頁）において、自由記述の考察手法については、鷲見宗信「浄土宗寺院と住職の社会福祉に関する活動と意義についての一考察」（『日本仏

天台宗における社会福祉事業実践に関する現状と課題（2）

『教社会福祉学会年報』第38号（2008年）35～47頁）に先行事例となる報告がある。

※本調査は、平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（若手研究（B））「現代における
仏教系社会福祉事業の実践状況と今後の方向性に関する研究（16730293）」（研究代表者：
藤森雄介）に関連して行われた。

（受理 平成23年1月11日）